

いのこしクラブ

平成26年11月
老人保健施設いのこし
名古屋市名東区猪子石原1丁目
1501番地

11月といえば

11月と言えば七五三、文化の日、勤労感謝の日など思い起こされるでしょう。

今回は、その中でも七五三についてお話したいと思います。

七五三とは、子供の成長を祝い子供自身にもその自覚を与えるためのものです。子供に持たせる千歳飴には、子供が元気によく成長するよう、また長生きするようという願いがこめられています。

古来の七五三の形は「髪置き〔かみおき〕」、「袴着〔はかまぎ〕」、「紐落し」、「帯解き〔おびとき〕」と呼ばれ、各地各様に男女とも行われていました。

髪置きは2～3歳の間に行われ、その日を境にそれまで剃って短いままだった子供の髪を伸ばし始める儀式でした。袴着は3～7歳の子供が、初めて袴〔はかま〕をつける儀式でした。紐落しは5～9歳の間に、それまで着物を留めるのに使っていた紐を帯に変える儀式で、帯解きとも呼ばれました。

江戸中期、呉服屋がこの3つの行事を商業政策として取り入れ、1つにまとめ、江戸の町で宣伝しました。これが今日の七五三の原型

だと言われています。そして武家や有力商人などの間で流行したものが、明治以降庶民に普及しました。

昔は医療・衛生的に未発達で乳幼児の死亡率が高く、成長する子供は幸運とされていました。そのため「七つ前は神のうち」といわれ、7歳未満の子はまだ神に属するものとされ、神がその運命を決めると考えられていました。そこで人々は数々の儀礼を行うことで、子供の無事な成長を祈りました。そして7歳の祝いはその不安定な時期を乗り越えた節目の儀礼であったため、特に7歳の祝いを重視する地方は多かったようです。



11月の誕生日者紹介

岩山 正雄様	88歳	遠藤 一郎様	82歳
西川 久勝様	90歳	大野 節子様	87歳

おめでとうございます♪

11月の行事予定

11月	8日	作品展
11月	19日	誕生日会 大正琴

